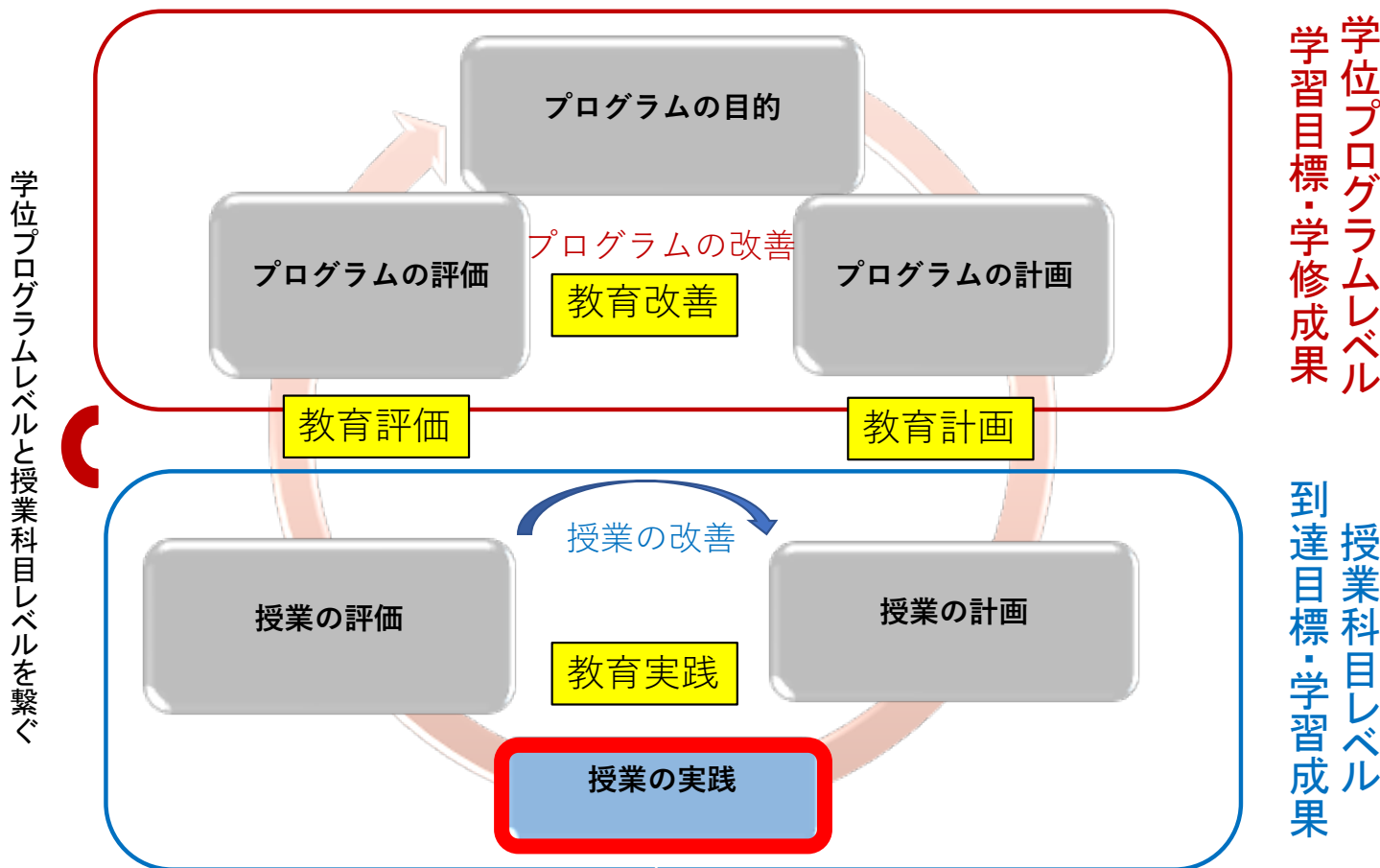


学生をどのように授業に 関与させるか

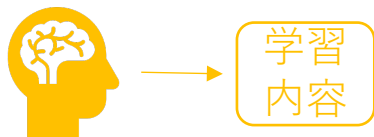
今回のスライドは・・・

九州大学教育実践枠組み

“From my course to our program.”



学生を授業に関与させる6つの方法



学生の既存知識
の活性化



問いを
投げかける



アクティブ
ラーニング



未完成の
ハンドアウト



具体例を用いる



講義前の学習
を可能にする

King's Learning Institute (n.d.)

1. 学生の既有知識を活性化させる



既有知識

学習
内容

- 学生は、あるトピックについて何も知らない状態で講義を受けることはめったにない。
- 学生が**すでに知っていること（既有知識）**を知ることが有用。
 - ① 適切なレベルの課題で教育を行うことができる
 - ② 学生の誤解を特定し、修正することができる

King's Learning Institute (n.d.)

実践例

- 授業の初めに2～3のオープンエンドな問題を出し、ペアでその問いに取り組みさせる。
 - 回答をブレストさせたり、一部の学生に答えを全体の前で話させる。
- 学生がすでに知っているはずの5-10問の多肢選択式問題を出題する。
 - 挙手させ、正答率が低かった問題に焦点化する。
 - 新しい知識に焦点を当てて、その新しい知識が学生の既存の理解にどのように関連しているかについて講義を行う。

King's Learning Institute (n.d.)

2. 問いを投げかける

そもそも「正義」
とは何か？



- ほとんどの場合、教員は、学生がただ情報を暗記するのではなく、思慮深くまたは批判的にその情報と向き合ってほしいと思っている。
- 「答えを提供する機会」としての講義ではなく、「適切な問いをどのように生み出すか」を学生がモデルとして学べるような空間として、講義について捉える。

King's Learning Institute (n.d.)

実践例

1. 問いで講義を始める。
2. 講義を一旦止めて、学生が個別に答えたり、ペアや小グループで話し合うことができるような問いを投げかけること
 - これにより、学生がすぐに新しい概念やトピックを統合するのを助けることができる。
3. 学生に以下のことを求める
 - 新しい考えや議論を別の言葉で言い換える
 - 問題を解決する
 - 実験の結果を予測する
 - 間違いを特定する
 - 多肢選択問題に回答する
 - 概念を列挙したり、優先順位を付けさせる
 - 別の方法を実行させる
 - 教員に対して2-3の質問をさせる

King's Learning Institute (n.d.)

3. アクティブラーニング



学生同士の議論

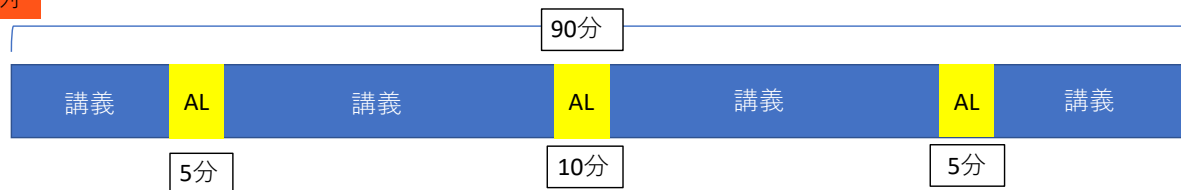


プレゼンテーション

- 非常にユニークで面白い教員がいても、90分の講義に完全に集中することは大変困難
- 特に授業の方法に変化がほとんどない場合、非常に難しい
 - 教員が一方向的に話し続ける講義など
- **アクティブラーニングの方法**を用いて、学生が**能動的に学習に参加**できるような工夫をすることが重要

*必ずしも、90分ずっとアクティブラーニングをする必要はない。それはそれでしんどい。組み合わせ。

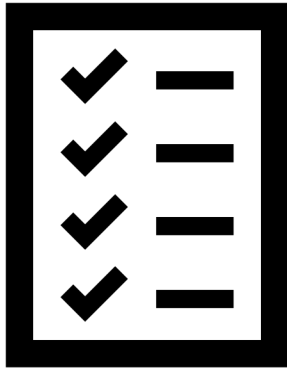
一例



実践例

- ノートの修正と再整理
 - 自分の書いたノートを見て、それを修正したり、もう一度整理させる。
 - 例えば、重要なポイントを強調させたり、主要な情報と補助的な情報を特定させ、主張とエビデンスを区別させる。
- コンセプトマップの作成
 - 自分の書いたノートの内容に基づいて、コンセプトマップを作成させる
 - そのトピックの構造を強調するのに役立つ
- シンク・ペア・シェア
 - まず、学生に一人で考えさえ（think）、その後ペア(pair)でアイデアを共有する(share)。
 - ペアに共有したアイデアについてフィードバックを得ることで、次により大きなグループの中で自分の考えを共有する場合でも、自信を持って自分のアイデアを共有できる。

4. 未完成の配布資料



- 授業前や授業中に渡すスライド資料に、講義で扱われるすべての内容をあらかじめ書いておく必要はない。
- **未完成の配布資料**により、彼らが積極的に自分に適したノートを取るよう仕向けることができる。

King's Learning Institute (n.d.)

実践例

- 以下の活動のためのスペースを残す
 - 定義を書かかせる
 - 特定の概念に対して自分なりの具体例を書く
 - 図を完成させる
 - 言葉を記入させる
 - 証明をさせる
 - グラフをプロットさせる
 - フローチャートを完成させる
 - 表に数値を書き込ませる

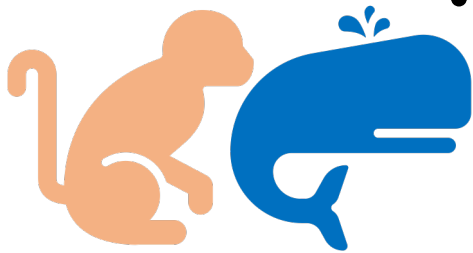
King's Learning Institute (n.d.)

5. 具体例を用いる

- 我々は講義の中で扱われた情報で何かを行うことができるように学生に望んでいる。

- ▶ 実験を行うこと、診断を行うこと、証拠を総合すること、複数の議論を分析すること、など。

哺乳類



- これらのスキルを教員がモデルとして示すことは、専門家がどのように考え、行動するのかを学生が理解しやすくするための基本。

- ▶ 実社会の例や問題は、抽象的な概念を実際にどのように応用するかを示す重要な方法。

- ▶ 学生自身の経験を引き出すこともまた、学生のやる気を引き出し、授業に取り組ませるための強力な方法。

King's Learning Institute (n.d.)

実践例

- 問題の解決、測定、テキストの読みなどの手順をどのように実行するか示す。
 - 消費者やテクノロジーのユーザーなど、学生の経験を引き合いに出してソフトウェア設計やユーザーインターフェイスの説明を行うことは重要。新しい知識や抽象的な知識をすでに理解していることに結び付けるのに役立つ。
 - ケーススタディやシミュレーションは多くの科目に適用することができる。
- 具体例や問題から始めて、それらから原理を推測する方法をモデルとして示す。
 - 多くの教員は抽象的な概念が導入された後で、具体例を使用するが、これを逆にする。

6. 講義前の学習

次回授業の
概要

- 今では講義前に、マルチメディアリソースや文献に、オンラインで学生がアクセスできる
 - 従来の講義への出席だけに比べて、授業前に学習をさせることで彼らのパフォーマンスを向上させることができる。

「反転授業」のイメージ。

- 講義の外で情報提供ことで、授業時間内でより高いレベルの学習成果をサポートするために多くの時間を割くことができる。

King's Learning Institute (n.d.)

実践例

1. 授業前の課題（ワークシート、ナレーション付きのPPT、ポッドキャスト、文献等）を割り当てる。
2. 課題に取り組みやすいように、「問い」を設定する
3. 「問い」への回答をオンラインで投稿させたり、課題についての質問やコメントを事前に投稿させる。
 - ▶これにより、講義でフォローアップできる。
4. 事前学習課題とアクティブな対面時間を組み合わせる
 - ▶対面の時間は、具体例を用いて学習したり、概念の高度な理解を深めたり、問題を解決する活動に用いる

King's Learning Institute (n.d.)

参考文献

- King's Learning Institute (n.d.) “7 ways to engage students in lectures” (<https://www.kcl.ac.uk/study/learningteaching/learning-and-teaching-support/quickguides/kcl-qg/dl/7ways-engage-students-lectures.pdf>) (accessed 2019.8.31)



- 連絡先

- 教育改革推進本部
- センター1号館4階 1409
- innovation@ueii.kyushu-u.ac.jp
- 担当：長沼